

2024 年 鯨ヶ沢スキー合宿報告 B1 近藤 師雄

日本丸合唱団恒例の鯨ヶ沢スキー合宿が岡本さん、新木さんの引率で今年も開催された。

今回の参加者は佐藤さん、岡本さん、西山さん、小浜さん、鶴野さん、新木さん、野本さん、山路さん、倪さん、大和さん、



岩木山(鯨ヶ沢スキー場を望む)

近藤の11名。直近のスケジュールは2月11日(日)が磯子での自主練習、12日(月)は生

麦での特別練習、13日(火)は技能文化会館での通常練習、そして1日空けて3日間のスキー部合宿と合唱団漬けの生活に少しびっくりだが、我が家の家内は「まるでGWのよう」と大喜びしており少し複雑である。

2月15日(木)7:40 発の JAL141 便で青森空港へ。バスでスキー場に向かうが道路にはほとんど雪がなく定刻通りにスキー場到着。長旅の疲れを温泉とビールで癒すグループと初日から滑るグループに分かれるが、まずは三階レストランで新木さんご推薦のヒラメの漬け丼を食べる。

例年通りであれば、粉雪と新雪という絶好の状況でのスキーを期待していたが、暖冬の影響で上越地方のスキー場のようで少しがっかりする。

スキー組はゴンドラで山頂駅に向かい、ほとんどの参加者は恐る恐るの滑りで足慣らしだが、指導員の資格を持つ佐藤さんの一人一人の実力に沿った的確なアドバイスにより、無事にゴールへ到着。そんな中、佐藤さん、野本さん(別名ロケットマン)、北海道出身者の大和さんは上級者のスキーの腕前を披露し他の参加者を驚かしてくれる。

その後何本か滑ったところで無事一日目が終了し、暖冬とはい

え冷えた体を温泉入浴で癒すことができ、極楽である。夕食は以前に比べて品数が少ないとの声もあった



が、和洋折衷バイキングを美味しく頂く。

その後幹事部屋で青森の銘酒「田酒」をいただく。飲み会の途中で2月13日(火)の技能文化会館での「琵琶湖周航の歌」の

キャプテン感激の、例の練習録音を聴き、『ここで、キャプテンが、おおっと感嘆の声を上げる』、『まあまあのハーモニーの出来だな』とか、それぞれ勝手なことを言いながら、全員で楽しいひと時を過ごす。

2月16日(金)、7:00 朝食。昨夜からの雪が20cm程積りゲレ



ンデは絶好の状態に。10:00 集合だが、大和さん、倪さん、近藤の若手? 3人組が待ちきれずにリフトで中腹に。そこからは昨年の定期演奏会で歌った「十三の砂山」の十三湖や日本海を眺めることができ、一同大感激。その後何本か滑った後本体と合流。

今日から西山さんも滑りに参加し、西山さん、大和さんの北海道組が華麗な滑りを披露してくれる。西山さんは合唱団活動の時より更にかっこ良く見える。

今日は佐藤さんのお仲間の瓜田さんご夫妻が参加され、我々の滑りを撮影してくれる日である。瓜田さんが先に滑ってビデオを構え、瓜田さんに向かって一人ずつ滑り降りる。

撮影されていると思うと、少しうれしく、少し緊張する。

瓜田さんは待ち構えての撮影だけではなく、ビデオを構えながら滑走し、横から、後ろからと様々な場面で撮影していただき、大変ありがたい。

途中で何度も佐藤指導員の的確なご指導をいただき、上級者と初心者・中級者が二人一組で、上級者の滑った通りに滑るなどの素晴らしい指導法により、昨日よりも上手になったと感じているのは私だけか?

撮影会を何度も繰り返し、午前の部が終了。昼食後も撮影会、佐藤指導員のスキー講習会、佐藤さんと瓜田さんお二人による模範滑降の見学などの楽しい時間を過ごし、二日目を終了した。

温泉入浴後昨日とほぼ同じメニューのバイキングを堪能したのち、幹事部屋でビデオ上映会。「撮影されていることで緊張し、普段の実力が出し切れていない。」との某参加者のあまり意味のないコメントを受け流しながら、佐藤指導員のビデオを見てのワンポイントレッスンを受け、あつという間に楽しい上映会&飲み会が終了した。明日に備えて早めに就寝。





2月17日(土)
早くも最終日。今日も瓜田さんご夫妻が来てくださる。本日も滑降前の準備体操を佐藤さんの指導の下入念に行い、リフト

に乗り込み滑降スタート。それぞれが気持ちよく滑り、あっという間に12時になり参加者全員が怪我無くスキー合宿のスキーの部が終了。レンタルスキーを返還し、温泉入浴後海鮮丼をいただく。前評判通りとても美味しい。

青森空港行きのバスが定刻通りに出発し、無事空港に到着。JAL148便で定刻通りに羽田空港着。楽しいスキー合宿が終了した。

スキー合宿中の涉外活動報告

B1 倪 瀚波

初日から、積極的に声かけて行ったせいか、2組の海外グループと接することが出来ました。

スキー自体も自覚するほどの進歩があり、実りのある青森スキーツアーでありました。

まず知り合ったのはオーストラリアのグループ。団のことを紹介すると、初日は「サウスオーストラリア」、2日目は「ポタニーベイ」と何人も歌ってくれました。しかも出身がスコットランドの方もいる、フィッシャーマン一家。シーシャンティ大好きで、本場は違わず、というところを見せてくれました。全員パス在住で、今後の日本丸合唱団オーストラリア公演も見えて来ました。更に卓球、ビリヤードで親交を深めることが出来ました。



まず知り合ったのはオーストラリアのグループ。団のことを紹介すると、初日は「サウスオーストラリア」、2日目は「ポタニーベイ」と何人も歌ってくれました。しかも出身がスコットランドの方もいる、フィッシャーマン

家。シーシャンティ大好きで、本場は違わず、というところを見せてくれました。全員パス在住で、今後の日本丸合唱団オーストラリア公演も見えて来ました。更に卓球、ビリヤードで親交を深めることが出来ました。

次は何と、泊まっているホテルのオーナー一族と知り合う事が出来ました。初日夜ある日本人風の男性ご老人に話しかけると、御年97で、家族に会いにアメリカより来たとのこと。ウチの横綱より凄い、とメンバーに伝えました。翌日の昼食時挨拶に行くと、シンカポールに居住の長男が同席。弟さんがオーナーで、経営のテコ入れでその弟さんを助けるために来たとのこと。またアメリカ在住のおじいちゃんが何回も危機を救ってくれたということで、お金持ち韓国系シンカポール一家でした。最終日の朝、オーナーである弟さんにも会い、メールアドレスを伝え、参加者のホテルへの意見を伝えるとの約束をしました。今後サービスなどが改善されることを期待しています。

2月24日麻雀部活動報告

B1 倪 瀚波

メンバーは百戦錬磨の新木飲み部長、前回大勝ちの古川さん、初回参加時いきなりトップの大和さんと私である。

開催時間が不安で一時間も早く来てしまった私は、寒い中外を散策。早く暖かい屋内で雀卓を囲みたい一心でメンバーが揃うのを待った。ふと見ると、新木さんの入電記録が午前中にあって参加の確認か、流石。

久しぶりの開催。時間になると、いつもながらママさんの親切な指導の下、スムーズに最初の半ちゃんに入った。

新木さんが古川さんに大きいものを振り込んだが、私は皆さんに合わせ順調に勝ち上がり何とか前半トップで逃げ切った。

さあ、楽しみの後半戦。以前前半トップで折り返し、後半追い付かれた経験を持つ私には、それが課題。案の定大き目を振り込み強者のメンバーに勢いを渡してしまった。点棒半減迄になったが、その前から実は反撃は既に始まっていた。

前半までの余裕がある体勢から、身体を乗り出し闘う体勢に変更。打牌も明らかに変わった。チーポンにも気配り出来るこの体勢が功を奏し、配牌から進み具合も明らかに前とガラッと変わった。それを物語るのが、ラス前ぐらいか。何回も成功して来た、配牌に従って高目狙いの手作りの延長で、清一色の



萬子をリーチ。場は明らかに普段と違う独特の雰囲気、私が何を待っているかを把握しきれない。新木さんも負けじと追いかけてリーチ、私のハイテイツモウが三万。慎重に確認したが和了ではないとの結論に達し、切った。しかしそのパイを他家に放銃することは明白で、案の定そうだった。一巻の終わり、と思

ったが、しかしその後である。待ち牌の再確認をしていると、古川さんが「九蓮宝灯」と言った。まさか！九蓮は何の萬子が来てても和了出来るはずだ。ママさんも呼んでの大騒ぎとなった。(上の写真、七万が「九蓮宝灯」、八万は「清一色」で和了)

さあ、いよいよである。気を取り直して再び開いた差を縮め、新木さん断然リードの後半戦を何とか凌ぎたい。ラストは見る見るうちに進み、リーチとなった。勢いを渡すまいと古川さんが応戦。結果はその古川さんが振り込み、勝負あり。なかなかの激戦となった結果はこれ。

手作りを楽しむ我が麻雀部の仲間との対戦、次回も楽しみだ。

